

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバが出現しました

1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖で10月18日に1.7個体/m³、久栗坂沖で10月26日に0.6個体/m³、川内沖で10月24日に1.6個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で10月18日に8.3個体/m³、10月24日に0.8個体/m³、久栗坂沖で10月18日に4.4個体/m³、10月26日に1.1個体/m³、野辺地沖で10月13日に3.9個体/m³、10月26日に2.3個体/m³、川内沖で10月24日に2.3個体/m³見られました (表1、図3)。

(3) その他

マボヤの卵が奥内沖で10月18日に0.8個/m³見られました (表1)。

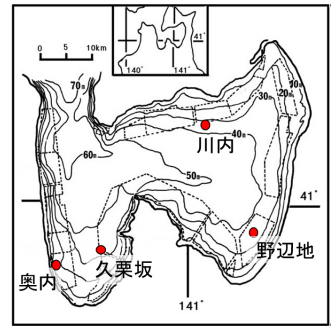


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は19℃前後です。

ユウレイボヤは20℃以下で産卵するので、今後本格的なラーバの出現と付着が始まるものと思われます。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバが出現する可能性があるので親ボヤを減らすために分散作業を進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

3 天然採苗情報

マボヤの卵が出現したことから、今後ラーバの出現と付着が始まるものと考えられます。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ムラサキイガイ	サンカブジツボ	マボヤ	
						ラーバ	卵
奥内沖	R5.10.18	1.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.8
	R5.10.24	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R5.10.18	0.0	0.0	4.4	0.6	0.0	0.0
	R5.10.26	0.6	0.0	1.1	0.6	0.0	0.0
野辺地沖	R5.10.13	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0
	R5.10.18	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
	R5.10.26	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
川内沖	R5.10.24	1.6	0.0	2.3	1.6	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

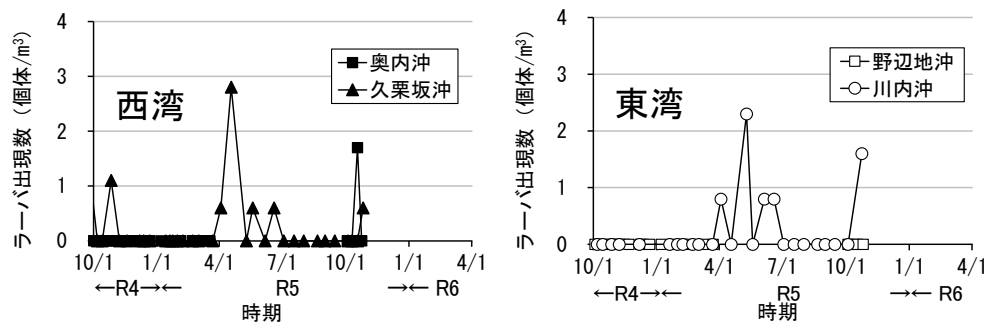


図2 ヲウレイボヤ・ラーバ出現数の推移 (令和4年10月～令和5年10月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

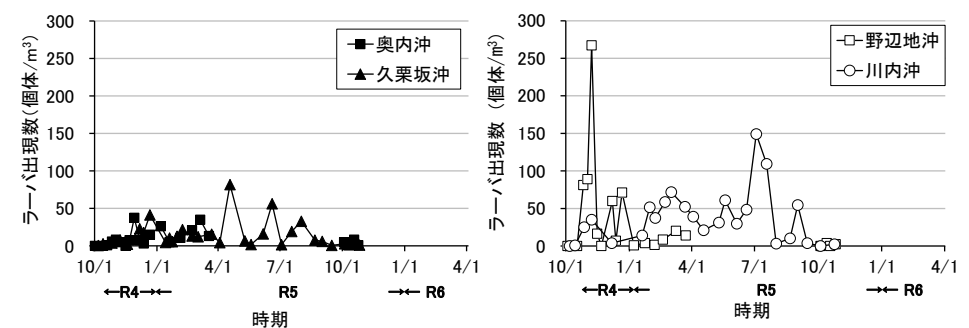


図3 ムラサキイガイ・ラーバ出現数の推移 (令和4年10月～令和5年10月)

・平成27年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 417個体/m³、東湾 1,650個体/m³

